

		公表		事業所における自己評価総括表	
○事業所名	放課後等ディサービス DOLPHINe 教室				
○保護者評価実施期間	2026 年 7 月 7 日 ～ 2026 年 7 月 1 4 日				
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27 人	(回答者数)	21 人	
○従業者評価実施期間	2026 年 7 月 1 4 日 ～ 2026 年 7 月 28 日				
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 人	(回答者数)	7 人	
○事業者向け自己評価表作成日	2026 年 7 月 30 日				

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職員の配置、看護師の配置により、医療的ケア児童が利用できる。また、5 領域を意識した活動を重視している。 専門的支援体制を整えている 同グループの放課後等ディサービスと協力して、専門職からの研修会などを開催。	医療的ケア児童と合同でできる活動を立案、みんなが役割や目的をもって活動できるよう工夫している感覚統合を意識した活動の立案活動を通して順序だてて考える力、見通しを持てる力を付けていく人気の活動は毎月取り入れるなど。 アセスメント、専門性の高い支援に力をいれている	成長に合わせた対応を検討していく 内部や外部研修を通じて、より専門性の高い支援、個人の能力に左右されない支援を提供していく
2	個別対応しながら、集団への参加を促している。言語表出できない児童について、自己決定しやすいように選択肢を設け関わっている。	選択肢は視覚支援をもちいて提示。 言語表出が難しい児童に関しては、代弁していく。また、言語表現のバリエーションを増やせるように支援している。 共感と承認をわすれない	自立課題の充実 SST を通じてルールやマナーの学びの機会の提供
3	活動内容に応じて、近隣の体育館や公民館、スポーツセンターなどを借りるなど、地域資源を活用して支援を実施している障がい者アートやかまぼこ板アートに作品を応募し観覧に出かけている 地域行事への参加	公共施設を使用することで、社会性や協調性を学ぶ機会としている広い場所で子供たちが思いきり体を動かせる環境を整える運動や創作活動を通して、多くの人と関わることの楽しさを学ぶ	公共機関の使用方法など子供たちと一緒に考える機会を設けるアートや運動が余暇へのつながりになるように工夫していく
	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所内のスペースの問題。狭いため効率の良い業務が難しい。医療的ケア児等の安静のスペースやクールダウンの場所を常に確保することが難しい。	施設の広さに限界を感じる	カーテンや衝立、段ボールハウスで個別のスペースを確保している
2	人員基準は満たしているが、個別サポート加算がついているなど、個別での対応を必要とする児童も多いため、適切な配置に検討が必要。		担当や役割を話し合い、環境を整え安全に活動できるようにしている。標準化されたフォーマットを使用し、適切にアセスメントされることで、個人差なく支援にあたれるようにしていく。
3	家族間や同世代との交流の機会が十分もてていない	参加しにくい（開催するも参加者が少ない）	参加しやすい方法やイベントを検討していく必要あり。 市などが開催するイベントや研修への参加ペアレントメンターさんに協力を得て交流会の開催を検討